

# (参考) 前提条件の詳細

第9回策定会議資料第13号  
27頁の誤記修正内容

項 目		想定条件
原子炉システム	軽水炉	<del>BWR, PWR</del> : 燃焼度 4 万 MWd/t 台 : <del>2029 年</del> までの新設炉対象、稼働率 85% 2049 年 <del>ABWR, APWR</del> : 燃焼度 6 万 MWd/t 台 : <del>2030 年</del> 以降の新設炉対象、稼働率 90% 2050 年
	FBR	Na 冷却 MOX 炉 : 燃焼度 15 万 MWd/t、増殖比 1.16 (高増殖炉)、1.04 (低増殖炉) 稼働率 90% (設計上は 93%)、MA 添加率の上限 5 %
	炉稼働期間	軽水炉ならびに FBR とともに 60 年
炉外時間	軽水炉	4 年 (炉外冷却 3 年、再処理 0.5 年、加工・装荷 0.5 年)、(炉内滞在 4.5 年程度)
	FBR	5 年 (炉外冷却 4 年、再処理 0.5 年、加工・装荷 0.5 年)
工程ロス率	軽水炉	転換 0.5%、燃料加工 0.1%、再処理約 0.5%、HLW からの MA 回収ロス 0.1%
	FBR	燃料加工 0.1%、再処理 0.1%
再処理施設	軽水炉	東海 : 2001 年 ~ 2005 年 40t/y、2006 年 廃止 六ヶ所 : 処理量は 2005 年 ~ 2008 年の計画値を模擬、2009 年以降 800t/y、2047 年 廃止 第 2 再処理 : 800t/y ~ 1200t/y、MA 回収を想定 (回収 MA は FBR 燃料に添加して燃焼)
	FBR	FBR の導入規模に応じて年間処理量 50 トン、200 トン規模のユニットで増強を図る。
	施設稼働期間	軽水炉再処理ならびに FBR 再処理とも 40 年
その他		軽水炉使用済燃料回収テイルウランの再濃縮利用を想定